

2005年3月15日

ユニセフ\*コープ ネットワーク

# ほむ・ほむ通信 No.27

## スリランカの現状

1月25日(火) ユニセフ本部の久木田純さん(Senior Programme Funding Officer)が、スリランカの津波被災地を視察した上で協会に立ち寄り、スリランカの報告会をしてくださいました。



(C)UNICEF /Kukita

ヘリコプターから沿岸沿いを写した様子。海岸から500mのところまでは何も無く、残骸や遺体などが集積しています。よく見ると、林によって守られた建物が若干あることがわかります。



(C)UNICEF/Kukita

衣類(サリー)が椰子の木の上に引っ掛かっている様子。この高さまで波が押し寄せたことを物語っています。



(C)UNICEF /Kukita

学校が崩壊した跡地に残ったユニセフのロゴが入った教科書。過去にユニセフが支援していた学校も被害にあったことがわかります。



(C)UNICEF /Kukita

ユニセフが提供したビニールシートを屋根にしてキャンプ生活を送っている様子。

## ユニセフの支援活動



(C)UNICEF/Kukita  
飲み水をきれいにするための浄水剤。これを小分けにして人々へ配布します。



(C)UNICEF/Kukita  
地雷が埋まっているために安易に立ち入れない区域。激戦地だったジャフナには地雷が埋められているため、キャンプ地を探す際の支援活動も非常に困難です。



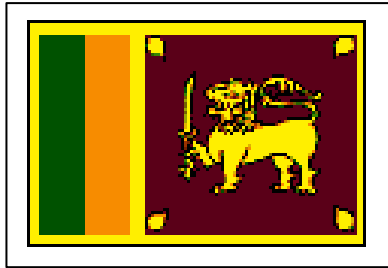
(C)UNICEF/Kukita  
スクール・イン・ア・ボックスをチェックする様子。子どもたちにとって学校で友達に会うことは非常に楽しみです。親もその間安心して家の整理などの復興活動に時間を費やせます。子どもが学校に通うことはコミュニティが平常心を取り戻すシンボルであり、治安の改善にもつながります。



(C)UNICEF/Kukita  
子どもたちが集まって演劇をしている様子。ユニセフは子どもたちに自分たちの経験を絵に描いたり演劇に表現してもらう活動を通じて、子どもたちが感情を内に抑えずにそれを外へ押し出す活動の中長期的に展開します。



# この国どんな国 ～スリランカ～



スリランカはかつてセイロンと呼ばれ、ポルトガル・オランダ・イギリスの植民地時代を経て、イギリスの自治領となり、1972年には完全に独立しました。スリランカの“スリ”は光り輝く、“ランカ”は島という意味で、「光り輝く島」という名前のとおり熱帯の美しい島です。国名は変わりましたが、セイロンと聞いたら誰もが紅茶を連想するように、イギリス植民地時代に導入された紅茶栽培は昔も今もこの国の主要産業となっています。赤道と北回帰線に挟まれたインド洋に浮かぶスリランカは、北海道をひと回り小さくした位の面積で、地図で見ると雫のような形をしているところから、インドの涙とも呼ばれています。

## 共存する民族

人口は約 1900 万人。民族はシンハラ人(仏教)が 8 割で、タミル人(ヒンズー教)が 1 割、次いでスリランカ・ムーア人(イスラム教)、バーガーと呼ばれる西欧人と現地人の混血(キリスト教)などとなっており、多民族・多宗教・多言語の国です。しかし様々な宗教の違いを超えた文化が数多くあり、例えば“アダムス・ピーク”という山は、仏陀・シヴァ・アダム・トーマスと、それぞれの宗教の神様の足跡がある聖地として共有され、人々は巡礼に出かけます。7～8月のハベラヘラ祭には、様々な民族の人が参加し、火渡りをしたり・山に登ったり・川で沐浴をしたりと、宗教的な意味合いと共に収穫の感謝と豊穰の祈り込め、皆で祝います。

その様に共存している一方で、1983年の10月

での暴動に代表されるシンハラ人とタミル人の民族紛争は、20年以上もの間続けられてきました。2002年にタミル人過激派 LTTE と政府との間で合意がなされたものの、民族和解の道はまだまだ遠いようです。

## 在日スリランカ人に聞きました

スリランカの朝は、子どもも大人も紅茶で始まります。食事の前にまず一杯。朝のミルクティを飲むために空きビンを抱え、牧場や牛乳売りの所まで牛乳を買いに行くのは子ども達の大事な仕事です。小学校は午後 2 時位で終わるので、子ども達は帰ってきたらまずは必ず“お昼寝”をし、それから家の手伝いをしたり友達と遊んだりします。食事は家族全員が揃って食べるのが当たり前で、日本のものとは全く違いますが、カリ(現地ではおかずの意味)数種とごはんが主食です。

このスパイス豊かな“カリ”が、イギリスを経由した為か、“カレー”という 1 つの料理として誤解され、日本に上陸したという説もあります。

義務教育は小中学校の 10 年間で、宗教ごとの授業もあり、男の子と女の子は別々のクラスということも珍しくありません。スリランカは公立ならば小学校から大学までは、国のお金で行くことができますが、そのかわり中学校・高校の終了時には試験があり、合格しないと上の学校には進めません。しかし、実際は学校に通うと家の仕事を手伝えなくなることや、制服等それ以外の出費も多くかかるため、行っていない子どもや入学しても止めてしまう子どもも大勢います。

### おいしいチャイの入れ方(4人分)

鍋に約少量の水を入れ火にかける  
紅茶の葉(なるべく細かいものが良い)を  
小匙 2 杯分と好みの量の砂糖を入れ、1 分位沸騰させる  
牛乳 2 カップとスパイス(カルダモン・シナモン・クローブ等)を入れ沸騰直前で火を止める



# 世界の子ども達は今

タミル人の男の子ジバムとシンハラ人の女の子シルバは近所に住んでいます。でも民族がちがうためにちがう学校に通い、一度も話したことがありません。

(文) 松本真弓 / (絵) 蛸沢素子



そんなある日、二人の学校では・・・

(ジルバの学校で)

先生が聞きました。「一本の棒はすぐ折れるけど、四本一緒に束ねたらどうだろう？」

(ジバムの学校で)



争うのではなく、力を合わせることが大切なんだね。

劇の中で、つかまった鳥たちが、われ先に逃げようとあばれていましたが・・・

## E C R ~ 紛争解決能力とは

ユニセフは、紛争下の子どもたちのための救援活動も行っていますが、対処療法的な対応だけでは十分とはいえません。次の時代を担う子どもたちが暴力によらないで争いを解決できるようにするために、このプロジェクトが始まりました。E C Rでは、身近な事例を使って、話し合いや協力によって争いを解決していくことの大切さを教えるようにしています。体験的な学習を通して、お互いや自分のよいところを認め合ったり、人の話を聞くこと、固定観念や偏見に気づくこと、感情をコントロールすること、建設的な解決のために協力し合う技能などを身につけていきます。



みんなも

考えてみよう！

## 各地の取り組みを紹介します・・・・・・・・・・・・・・・・

### ユニセフ協会埼玉県支部で街頭募金活動が取り組まれました。

2月11日、日本ユニセフ協会埼玉県支部がJR浦和駅頭で、スマトラ沖地震・津波緊急募金の街頭宣伝行動をおこないました。この宣伝行動には、埼玉県支部の会長以下、役員、ボランティアスタッフ、そして地元さいたまコープの組合員・役職員など総勢38名が参加し、約3時間にわたり募金の訴えがおこなわれました。



埼玉県のマスコットである「コパトン」も募金活動に参加し、子どもたちに手を振りながら募金への協力を訴えました。携帯電話で記念写真を撮る方もおり、人気を集めていました。この日の取り組みでは、約13万円にも及ぶ募金が集められました。

### みやぎ生協では「スリランカ生協連復興支援」募金活動が取り組まれました。

今回のスマトラ沖地震・津波では、スリランカも大きな被害を受けました。みやぎ生協では、03、04年に研修生としてスリランカ生協連の職員を受け入れてきたこともあり、12月27日にはスリランカ生協連のパティナラ専務より緊急の支援を求めるメールも届きました。その中では、スリランカ東海岸（インド洋）沿いの20生協の店舗・倉庫などが全壊するなど大きな被害を受けたこと、また、スリランカの生協組合員の約1/3になる100万人の組合員が被災した可能性があることが伝えられていました。

こうした状況を受けて、みやぎ生協では援助は緊急を要することから、100万円の義援金を早急に送ること、そして店舗と共同購入で緊急募金を取り組むことを決定して呼びかけてきました。特に職員に対しては「スリランカ生協連復興支援」として募金への協力が呼びかけられました。

### スマトラ沖地震・津波復興支援募金キャンペーンのスタート集会が開催されました。

2月24日、高輪プリンスホテル（品川）において、日本ユニセフ協会と日本生協連によるスマトラ沖地震・津波復興支援募金キャンペーンのスタート集会が、全国から24組織70名の参加を得て開催されました。

この募金キャンペーンは、現地での継続的な支援活動に役立てるために、今年の12月まで全国で取り組まれます。

この集会には、UNICEF本部よりシャラッド・サプラ氏（広報局長）、アフシャン・カーン氏（緊急支援室副局長）が出席して、現地でのこれまでの支援活動とこれからの課題についての説明がありました。また、現地における実際の支援活動の体験として、被災地で活躍した簡易浄水剤を使用して、汚れた水を浄化して飲み





水にするデモンストレーションを行い、参加者の注目を集めていました。

その後各地からメッセージとして、日本ユニセフ協会岩手県支部・岩手県生協連から県支部と生協の協力した活動、そしてさいたまコープからユニセフ協会埼玉県支部と協力した街頭宣伝活動について報告をいただきました。

### お年玉募金の取り組みを紹介します。

今年は、スマトラ沖地震・津波緊急募金のため、例年取り組まれているお年玉募金活動を緊急募金に振り替えるケースもありました。

コープかごしまでは、機関紙でお年玉募金の呼びかけが行われ、切り抜いて使用する募金袋も掲載されました。子ども向けお年玉用ポチ袋が、とってもかわいいですね。



### コープえひめの取り組みを紹介します。

コープえひめでは、3月5日の四国中央支所まつりで、ユニセフクイズスタンプラリーとカレンダー募金が行われました。クイズは組合員さんが考えた内容で、ユニセフが設立された年やユニセフのマークを選んだりするものから、「世界の言葉で挨拶しよう」というものもあります。「ユニセフ募金をしたことがありますか？」という問いに「いいえ」と答えた場合、横に置いてある募金箱にお金を入れてもらったりしました。



クイズの最後は、「ネパールの水がめを持ち上げてみよう」でした。持ち上げることはできても運べないので、お母さんと呼んできた子もいました。水がめをのぞいた子どもに「どこに亀がいるの？」と尋ねられる微笑ましい一幕もありました。スマトラ沖地震・津波復興支援募金キャンペーンも、ポスターを貼って募金を呼びかけました。

（コープえひめ機関運営部・海田千春さんより情報をお寄せいただきました）

## ぽむぽむ広場

ぽむぽむ通信の通算 27 号をお届けします。

全国のユニセフ協力活動の交流誌としての役割はもちろん、世界の国々や子どもたちの様子も積極的に紹介していきます。

全国の活動事例や、ぽむぽむ通信の感想・ご意見をぜひお寄せください

次号は、6月15日発行です。お楽しみに！

### ユニセフ\*コープネットワーク ぽむ・ぽむ通信

No. 27 2005年3月15日発行

編集 グループ ぽむ・ぽむ

スタッフ・編集/尾澤・谷杉・浜崎・福本・藤森・  
松本・山本・林田・北村・茂垣

イラスト/蛸沢

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷 3-29-8 コーププラザ 11 階

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://www.jccu.coop/>